京城新報

●陰曆 一月十二日
發行所 京城新報社 電話六六三番

新疆旅行記(續)

七月二十九日「デーリング」氏は「チェンツハイ」より通信して曰く

此地方には天山より流下する河川甚だ多く土人は其の爲めに此地を「瀚海」と呼べり、然れども水深からず、如何なる所にても六尺より深からず、車の通行する水路に至りては、三四尺に出づる所なしと雖も、水流は急激にして危險なり、斯の如く水多きを以て、[illegible]全く氾濫して使[illegible]此地方の風景は變化に富み、[illegible]なる風景の殆ど堪ふべからざるに比し、甚だ旅情を慰むるものあり、稻田は將に實らんとし、高き低き藩[illegible]色に花咲出づるあり[illegible]群がる牧場は到處に[illegible]天山の高峰は千古の[illegible]夕陽嶺に沒せんと[illegible]紅との色を以て輝き[illegible]く筆紙の描き得る所にあらず。

七月三十日、吾等は淸朗なる月明に乘じて「チェンツハイ」を出發せり日中は甚だ暑かりしかば、馭者は夜行に決し、余も之に從ひしなり、途中は灌木生ひ茂り、處々[illegible]月夜の騎馬旅行には[illegible]月の上りしは夜中頃[illegible]吾等の道は全く暗黑[illegible]する閃光の動物を驚[illegible]次の停留所は「チェ[illegible]里なる「タウィルン」[illegible]時間頃「クウィルン」[illegible]商の車の一には丈高[illegible]は此兩地の中間なる[illegible]りしが、余は獨り騎[illegible]送せらるゝあり、彼[illegible]言はるれども、彼を[illegible]犯罪人なることを余[illegible]は伊犁に送らるゝや[illegible]なり、「ケウィルン」[illegible]て、一二の旅舍と其[illegible]農家を有するのみ、唯其近傍に堀砦らし[illegible]一の重要なる場處と[illegible]如き遙に大なる地が[illegible]尚能「クウィルン」の[illegible]べし。[illegible]停留所たる「シホ」ま[illegible]されども、三里又は[illegible]の來る所以)を橫截らざるべからず、重荷を曳きながら急流に逆ひて河を渡るは駄馬にとりて困難なる事にて、余は七月三十一日に「シホ」に着したれど、馬夫等は翌朝早く着せり。

此地は土耳古人の方、支那人よりも多數にして、其店も亦最も賑へり、一日に三回小供ざ家僕に店の番をなさしめ彼等は會堂に集合す、其間は憂鬱にして眞面目なる態度を持し、互に喃々し又は笑聲を發することなし、丈高く力强き男子や、又時には風姿美々しく髯鬚霜を揩ける柔和なる老人が禮拜に膝付くを見ることあり、彼等は長き衣服と白き頭巾とを着く、余は此地にて「ウルムスチ」より來る一車の着する迄待たざるべからず、所の長官は喜んで余の世話をなし呉れたれども、荷車は悉く約定濟となり居れり、前に述べたる如く土耳古人は支那人よりも其數多ければども、支那人の方遙に八釜しく、長官は余に一臺の車を雇ひ呉るゝこと能はざりしかば、其代りに贈物を余に送られたり、贈物は菓子、米、及馬と驢の食料とを入れたる二個の包と一甕の葡萄酒となりき、彼は湖南の人にして、其事務所は整然として雅致に富めるを見受たり

余は八月五日の拂曉「シホ」を發せり、寒冷なる暴風の吹きすさびたる日なりき、次の停留場なる「ツルテオ」に達する前、馬が川を渡ることを肯せざりしかば大に困却せり馬夫及通行人が種々骨折りたれども一向に其甲斐なく、馬は一寸も動かんとせず、一二時間計りは人々互に馬を打ち、又曳きたる後は暫し堤上に坐し、其せんすべなきに困じ居たり、時に近所に住せる一人の農夫吾等を助けんとして一頭の馬を曳き來り、吾等の誅反せる馬の力を借らずして能く荷車を曳きて川を越し呉れたり、こは美しき馬なりしが、農夫は吾等の馭者の馬の一頭と交換せんことを申出でたり、其懸合は長時間續きしかば、余は馬蠅の群の爲め頗る苦しみたり、余は日中の炎熱を逃れんが爲めに前進することを得たりしなれども、怪しの浮浪人等が「シホ」より余の後に從び來り、車上には大金を積めりと思へるらしく車上の品物に注目し居るを氣付しかば、車の傍を去らぬ方、上分別と考へ、敢て前進せざりき、道路は小山より流るゝ小川の爲めに生じたる沼地に、生ひ茂れる藺や草の藪を通ずるものなれば、吾等の廻りに群集する小蝿や數萬の蚊ありて、皆に余の最も苦しき旅行なりき、一度夏の日中此道筋を通りて伊犁に旅行せしことある馭者は、二度とこの道を通るものなからんも、吾等の馭者は以前に此旅行をなしたる經驗なかりしを以て、止むを得ざる事なり。

暴徒討伐情況

▲賊殲滅せらる 谷山分遣隊報告に曰く一月二十六日午前十時三十分桃花面葛天里飛山南方三里牢頭尾より昨夜十二時頃五十餘名の暴徒は何れより來れるや邑內に宿泊し本朝邑民を集め百圓の金員を出す可し若し出金を拒むときは銃殺せんと脅迫しつゝありとの報告を得たり依て卽時我兵韓兵取交せ輕裝せしめ葛天に向ふて出發急行尙分遣所よりは佐藤忠五郎渡邊計志治の兩巡査及び李容渉李康五の兩巡檢同行す同日零時三十分頃葛天里着直に突擊準備をなさしめ李侍燦宅に之を決行し該家屋を包圍し若干時間猛烈に射擊を加へ然る後家內に突入せり然るに彼等は周章狼狽鼠却て猫を咬むの勢にて所持せる銃器を縱橫無盡に振廻し我に抵抗彼我混戰格鬪すること約二十分にして賊は殆んど殲滅し遂に兵器及び雜品を投棄し潰亂逃走したれば直に追擊を開始したるに賊徒四散山中に遁竄し日沒に至るまで山中及び部落を搜索せしも遂に踪跡を失し目的を達する能はざりしを以て歸還に決し先づ玄岩里に引返し鹵獲品の處分をなしたり該鹵獲品は火砲銃三十五、火藥三升、鉛彈千餘、火藥入三十八、衣類數十點、雜品多數敵の死傷は巨魁以下三十二名負傷不明我兵數名唯だ打撲の輕傷を受けたるのみ

▲長淵方面の討伐 長淵守備隊報告に曰く一月三十日長淵を距る南方四里直厨洞附近に暴徒約三百名集團しあるの報に接し同地守備隊長代理步兵伍長猪股米太郎は部下を率ひ同月三十一日午前二時長淵を出發し六時三十分屯厨洞北端に達したる此時暴徒步哨三名は我討伐隊の襲來を速知し該村落內に遁走せり伍長以下は直に村落內に突入集閣に向ひ射擊せ彼等は尙は射擊を以て我に抵抗し約二十分間戰鬪を繼續せり然れども我猛射に堪へず遂に兩側岩山に退却せり討伐隊は同日午後七時無事歸隊此戰鬪に於て賊の遺棄せる死體は七、火繩銃二、モーゼル銃一、其他銃器、鹵獲品多數ありたり

▲大峴の追擊 海州守備隊報告に曰く海州守備隊より一月二十五日偵察のため所羅[illegible]の賊を追擊しつゝ二十七日午前六時二十分海州西地約八里坊洞に於て此時賊は將に出發せんとするものゝ如かりしかば潛行して村端約三百五米突の地點に達せしに賊の步哨村端にありしを以て直ちに射擊前進せしに彼は一時抵抗せしも四散退却追擊に移り約一里半なる大峴洞迄前進せしも同地方は山谷甚しく遂に其踪跡を失せり此の戰鬪に於て賊の死屍四負傷若干我に損害なし鹵獲品は火藥入二個なり

▲達摩山の戰鬪 山本上等兵の報告に曰く一月三十日午前九時文化郡興旺面闕長李相客より次の情報に接したり即ち一月卅日午前九時文化郡興旺面星面洞に暴徒卅三名松禾方面より來り朝食を喫し居れりと故に達泉に卒若干を殘して急行し午前十一時星巖に達し偵察したるに暴徒は約二時間前達摩山方面に去れりと追躡午後三時文化郡及場沙川に至りしに約三十分前晝食を喫し松禾郡獨基洞方向に去れりと依て急進して午後五時五十分獨基洞西方約三百米突岐路に於て獨基洞方向より來れる土人を詰問し居る中俄然左方高地松林間より(我を距る約八十米突)射擊を受けしを以て之に應戰せしも我の微力を侮り頑强に抵抗するのみならず我を包圍せんとするを以て包圍に先ち賊の主力に向て猛射をなしたるに漸次動搖したれば死を決して突貫を試みしに奏功し賊は四方に散走す此間約四十分主力は達摩山方面に走りしを以て追擊約千米突にして日沒已むなく獨基洞に引上げ宿泊せり賊の即死五輕傷多數鹵獲品火繩銃三、彈藥若干ありたり

北滿輸入の酒煙草

昨一年間に浦鹽を經て北滿に輸入したる酒類はコニャク酒一萬七千七百七十留ラム酒十一萬三千百七十留リキュール酒一萬百三十五留シャンパン酒九十七萬六千三百三十七留麥酒二十二萬八千六百八十五留其他の酒精三十七萬九千九百二十四留合計百六十二萬五千四百二十一留にて之等は悉皆無稅なり此外滿洲に於て露國人の釀造する酒精は四十七萬五千留を降らず故に北部滿洲の露國人は一ケ年に二百萬留の酒を飮用する割合なり而して北滿居留の露國人を合計五十萬人と看做すときは一人平均四十留を飮酒に消費する計算となる而して同年中同港を經て滿洲に輸入[illegible]たる紙卷煙草は七萬零六百二十留葉卷煙草は十六萬七千六百三十四留刻煙草は七十二萬九千七百十留合計九十六萬四千二百六十四留なりと云ふ

京城の輸出入重要品

關稅局の調査によれば昨年に於ける京城輸出入重要品は左の如し

品目	數量	價格
和金巾	一一六、九二五	五二六、二五六
絹巾	六八、五〇〇	六一、六五〇
絹綿交織物	一七、〇二〇	三四、〇四四
綿織糸	一八一、二〇〇	六〇、四一四
衣服及小間物	[illegible]	[illegible]
麥粉	八五六、九一二	三四、九七五
砂糖	二七七、七八〇	二二、二二三
陶磁器		八、四九二
清酒	四二、九二五	一七、一九〇
書籍及印刷物		一三、〇六四
紙	一、九四七	三、五〇六
ビール	一、九八四	四、四六四
羅紗	一、五八二	三、一六四
漆器		八、二七四
其他		八六五、一三七
計		一、八六四、〇七四

以上輸入にして再輸出なし

輸出之部

品種	價格	輸出先
雜品	一六、七四八	日本
計	一六、七四八	

壹月中京城商況
(京城日本人商業會議所調査)

△玄、白米 は韓人側大節季に迫り目前に舊正月を控へしため金融逼迫を告げ爲めに相場外の安價を以て放賣せしもの續出するに不拘本月は玄米の如き日本內地、或は北淸等に輸出するもの少く新に米國、香港等に向け輸出非常に盛なるより昨年の同期に比し石に付き一圓以上の高價を呈せり從て韓人側に於ても正月を過ごしなば何れも解氷迄は騰貴の見込あるを以て賣控の姿なり甚しきは日本商人側に於て韓人が京城より仁川に輸送する途中を見計ひ橫取的に買收するの勢にて市場は非常なる活氣を呈せり然れども解氷期に至らば何れも下落を見るならん

△大、小麥 は韓人側の舊正月に切迫せし爲め地方より相當の出廻りありて大麥の如きは軍隊馬食用として賣行多く然れども相場に於ては前月に比し大差なし大小豆は相場に於ては變動なし亦た地方よりの出廻り相當にありて市場活氣を呈せり

△日本酒 は本月に入りて多少減じたり其原因たるや一月は日本人側は何れも節季に牢樽又は五舛と云ふ工合にて買込みしもの又は互に贈答用として買入れたる者殘り居るを以てなり値段に於ては前月に比し變動なし中にも白鶴、櫻魂、澤鶴等賣行最も良好なり

△紡績糸 は舊正月前に當り一般延取引中止の爲め賣行宜しからず相場も內地商況に連れて下落の摸樣なり

△砂糖 は新正月後にて賣行捗々しからず是れ各戶共正月餅のある爲め各菓子店等にては菓子類の賣行少く從て本品の需用を減せしならんが相場に於ては變動を見ず

△和洋金巾 紡績糸と共に舊節季に迫り居る爲め例年多少賣行あるも現今韓人に對し延取引中止の爲め賣行多からず相場も從て變動なし然れども三菜組綿布に限り三イー印和金巾は梱に付き二圓方騰貴を爲せり

△牛皮、牛骨、牛臟 何れも輸出先たる大阪相場下落に付き出廻り少なし

△石油 時候柄賣行最も良好にして勝利票は安價なるも私票は品質の善良なる爲め函に付二十五錢內外の高價にも不拘賣行良好なり

△石炭 冬季の事とて賣行最も良好にして中にも日本塊炭の上等と稱するもの需用多し而して相場は前月よりも噸に付五十錢內外の高價を示せり(未完)

小說

紋のみだれ (七十)

永井櫻園

山田は、淸之助が藝人でありながら、一片の恩誼を忘れず、且つ暗々裡に約した辭を守つて、かくまで自分を思つて下れるかと其の優しい心根を深くも歡び、

「……淸ちやん、では、お前は彼の時言交した辭を忘れないで、眞箇私をそれほどに思つて居て下れるのか。」

と、暗淚を泛べて凝乎と其顏を見る、

「思つてるかとは、あんまりですわ、お約束を忘れないからこそ、今も言ふ通り一方ならない苦勞して、訪ねて來たぢやありませんか、私が貴方のために、何のくらゐ苦勞したかは、とてもちよいとぐらゐに話すとは能ませんわ……今日は思ふ樣怨みを言はうと思つて樂むで來ましたのに、來て見りやァこの御病氣ですもの張合が脫けて了ひましたわ。」

と、甘へるやうに言ふ、山田は暫く無言で考へて居つたが、

「……お前が然う云ふ心と知らずに、今日まで居所も知らせなかつたのは、眞箇私が惡かつた、どうぞ堪忍して下れ……私も彼の時それとなく約束した事は、一時も片時も忘れはせんけれど、しかし淸ちやんは年齡も若いし、人氣もます〱宜いのだから最負にする客も澤山出來て私のやうなものゝ事なんか、直に忘れて了うだらう、設令忘れないまでも、可厭になつて、なぜ那麼人とあゝ云ふ約束爲たかと、必然後悔するであらうと、自分で諦めて了つて居つたのとは、今日の今まで知らなかつた。

では、改めて聞くが、淸ちやんは斯樣境遇に沈むで居つても厭はないで、あの時の約束を實行して夫婦になつて下れる氣があるのか。それを聞かして下れ……。」

と、苦しき中にも息を逸まして聞く、淸之助は躊躇う樣子もなく、

「那樣事今更聞かなくッても分りきつてるぢやアありませんか、でなくッて、誰が斯麼心配して訪ねて來ます。いくら年齡が若くて、浮氣稼業をしてるからツて、それは人に依りけりですよ、少しは可愛相だと思つて下さいよ。」

と、パッと赤くなつて微笑む、

「あゝ、私の量見違だつて、淸ちやんが左ほど意志が强固い女と知つて居つたら、然うも彼も早く打明けて了やア宜かつた、然うすれば斯麼境遇にまで沈まなくつても宜かつたかも知れん……」



と、嘆聲を發して[illegible]

「では、かうなつ[illegible]で相談するが、私[illegible]も居たくないが、[illegible]くなるばかりだか[illegible]長くはあるまいと[illegible]宿なんかに居ない[illegible]りやうと思つてる[illegible]移るよりか、今度[illegible]いかと思ふが、何[illegible]

「然うですね、そ[illegible]贊成ですが……」

と、思案する。

「贊成ですが、[illegible]か。」

「いゝえ、然う[illegible]してからと云へば[illegible]だらうと思ひまし[illegible]

京城新報

滑稽なる對照（承前）

東洋火災の資金運用法
韓國官吏の保險監督

既に前號に於て東洋火災の資金運用目論見に就て其無謀なるを指摘したる余輩は是より我統監府が東洋火災の發企者に交付したる認可命令に就て聊か論評を試むべし

命令事項第一
日本帝國の保險業法及其附屬法令に準據すべし
前記法令に主務官廳、農商務大臣地方長官とあるは韓國農商工部、農商工部大臣、同地方長官と心得べし

と是れ會社業務監督に關する命令條件にして監督法規は我邦の法律に準據し其執行者は韓國官憲なることを示せるものなり、凡そ各般の法規中其運用の最も困難にして其執行の最も煩累なるものは保險法に及ぶものなし保險は經濟思想充分に發達して金融干係の複雜なる社會に於て發生し存立すべき事業なるが故に之が監督に關する法規も亦精細複雜なるを要し監督の局に當るべき官憲は緻密なる頭腦と公明なる性格を具備するにあらずんば其職責を完ふすること能はざるなり我農商務省は特に人材を撰拔して歐米の保險事業を研究せしめたる上に保險法制定以來十餘年の實驗を積みたる今日に於ても尚ほ監督の實蹟を擧ぐるに苦しみ幾多の保險「ゴロ」なるもの各府縣に横行し巧に法網を潜りて地方人士を踏着し或は株金を濫費し或は保險料を着服し數百の株主と幾萬の被保險者に巨多の損害と不慮の迷惑を蒙らしめつゝある事實は我農商務當局の常に頭腦を惱ます所なり斯の如く監督の至難なる保險事業に對し韓國の官憲をして其局に當らしむるに至りては余輩は當局の大膽なるに驚かずんばあらず韓國官憲が果して克く高遠複雜なる我邦の保險法規を解釋說明するの智識ありや否や之れ已に疑問なり況んや意りなく會社の營業狀態を監視し誤りなく法意法文の適用を遂げ以て監督の責を全ふせんとするに於てをや、人若し之を目して木に緣り魚を求むるの類なりと評するも余輩は其辨解の辭なきに苦しむものなり

會社の資金運用法已に滑稽なり當局の監督方法亦前述の如く滑稽なるを免れずとせば之を滑稽の對照と云ふ決して謎言にあらざるべし當局及有志諸氏宜敷余輩の警告忠言に反省して後日に悔を遺の恐を演ずる勿れ

東京電報

▲紀元節御賜宴

天皇陛下には今日内外の臣僚四百四十餘名を召され賜宴あり優渥なる勅語を下され西園寺首相は内臣を代表し獨逸國全權大使は外臣を代表して奉答し終りて開宴仰せ出さる

▲憲法紀念會へ御下賜

伊藤公今日憲法紀念祭擧行に付　兩陛下より酒肴十樽及び御料理千人前を下賜さる

▲憲法紀念會の盛況

伊藤公邸に於ける憲法紀念會は來會者一千餘名に達し先づ公の挨拶あり次ぎに山縣公演說し杉田衆議院議長は議員を代表して祝辭を朗讀し一同觀を極めて退散せり（以上十一日發）

雜報

●韓太子御移轉　客臘以來宮內省內匠寮にて經營中なりし鳥居坂御用邸は去月三十一日全部の手入完了したるを以て芝離宮御滯在中の韓國皇儲英親王には愈九日新御用邸に御移轉あらせられたり當日伊藤大師を初め陪從武官長趙東潤、特進官嚴柱益大夫高義敬、陪從武官金王善、主事高義中並に御學友四名を隨へ午後二時十分離宮御出門同三十分御用邸に御着相成り御座所に於て伊藤大師以下近侍の人々を御對手に四方山の御話あり取敢ず本國へ御轉居の電報を送られたり同御用邸には今後正門に皇宮警手二名の外特に近衛步兵第一、第二、第三第四各聯隊より一日每に將校一名、伍長一名、上等兵三名、兵卒九名を派遣し警衛事務に任せしむる由

太皇帝の問電

一昨十一日午前七時四十分太皇帝陛下は韓太子殿下へ左記電報を發せられたり
移轉後無事なるや否や五六七日の葉書は今日見る汝の書きし葉書は電報よりも悅ぶ益々自愛せよ　兩闕泰平父平信

露國民の混入

北韓の暴徒中には露國に國籍を有する多數の韓人混入し居れりと云ふ

一進會の衰運

一進會の領袖たりし申泰千は多數の同志者と共に數日前一進會を脫し天道敎會に投じたり

平壤鑛務所に付

平壤鑛務所內が亂脈を極め居ることは本紙の已に報道したるところなるが尙聞くところによれば醜事の關係者は佐瀨某牧田某及松井某なりと云ふ詳細は精探の上不日發表すべし

韓國政府立換金

政府は八日豫算外國庫の負擔となるべき契約を爲すを要する件として衆議院へ提出したる韓國政府に對する立換金內容は如左

韓國との新協約實施に伴ひ同國の歲計不足を補塡するが爲總額千九百六十八萬二千六百二十三圓を限り左の條件に依り立換金を爲すの契約を結ぶ事を得

一金百七十六萬九千五百三圓	明治四十年度
一金五百二十五萬九千五百八十圓	同四十一年度
一金三百六十五萬三千五百四十圓	同四十二年度
一金三百萬圓	同四十三年度
一金三百萬圓	同四十四年度
一金三百萬圓	同四十五年度
計金千九百六十八萬二千六百二十三圓	

一兩國政府の協議に據り年度割を變更することあるべし
一立換金は無利子無期限

●十一日參內者　昌德宮計三十八人內[illegible]　李圭元同金黃鎭等なり
[illegible]本月[illegible]前の仁川

乘車賃金　一千五百九十二圓三十四錢
入場料　四圓九十八錢

發送通數　四千二百七十六錢　七百十五錢

●度支部官吏の聘傭　度支部官吏にして在官の儘中央金庫又は金融機關に聘傭の件を裁可し左の如く公布せられたり
第一條　度支部大臣は貨幣整理事務又は金融機關監督の必要上其所屬官吏を中央金庫又は當該機關に雇聘することを得
第二條　前項の官吏は之を定員外とす
前條の官吏には其雇聘中俸給は停止し其他の給與は支給す
本令は頒布の日より施行す

露國半官報の批評

我南滿經營に對する最近の露國半官報哈爾賓に我南滿經營を批評したる論文あり事實顚る翩翩する所多きも其一流の觀察批評は如何の邊まで及べるやを窺ふも興味なしとせず左に之を譯載す

日本は戰餘の他國領土に諸般の新計畫を樹立し之が根底を固めつゝあり即ち關東州及び南滿鐵道沿線地に對して我極東總督以上の機能を保有する都督の新設內地と大連、營口、秦皇島間の定期航路の開始、鐵道沿線主要街區の擴張整備等は全然之が事實を語つて餘蘊なきものと云ふべく殊に吾人が注意に値するものは奉天に於ける日本市街の建設にあり

聞く處によれば奉天に於ける南滿の所屬地は二百四萬九千百七十六坪にして西方三分の一を新市街建設用地となし停車場を之に移轉し停車場より全市街に通じて幅三十ヤードの大坦道を開通する計畫にして之が要費約八百萬圓なりと事未だ企畫中に屬すと雖も又瞩目すべきものあり、知らず、這個の大規摸大計畫が誰が手になり之が現實資金の出處如何を余輩は只悲む日本の滿洲に於ける行動が間々失敗に歸せることを今東京經濟協會の最近集會に於ける撫順炭鑛及其他に關する報告を摘記せん

云ふ該炭鑛は其採掘高割合に少なく、大連商に一噸十圓半より廉なる能はず然ればとて英、白資本家の事業なる開平炭の競走あるが爲値段も亦ならず加ふるに北京―奉天線の貨物乘客の吸收に全力を傾注するものあるに係らず滿鐵にては依然全線貨車の不足を訴へ爲に貨物の停滯甚しく之に乘じて東淸鐵道は運賃の引下を斷行し浦港方面の輸出を計りつゝあれば今や日本は殆んど重圍中に陷れるが如しと

蓋し日本は吉長線により穀類木材等の多大の供給を得んと期し居るものなれば已に該踏查も結了したる今日早急建設に着手すべく之が完成の曉は誠に本年夏期迄に米國注文の貨車到着の答なるにより之によつて着手活動を試むることゝなるべし

●完興君の新年宴　完興君李載冕氏は本日午後六時自邸に於て新年宴會を張らるゝ由にて曾禰副統監以下日韓重なる文武官を招待すべしと云ふ

●表勳院總裁晩餐會　表勳院總裁完順君李載克氏は來る十五日ソンタク邸に日韓重なる文武官を招待して晩餐を催する由

●博物館敷地　帝室博物館設置のことは曾て報道せし如くなるが同館は昌慶宮內より昌德宮內秘苑に至る間を其敷地として玆に動物園植物園等を設くることゝし迎春軒に事務所を置き不用の客家は之を取除くことゝなれり

●電車問題交涉　電車賃値上問題に就ては熊谷民長とコールブラン氏との間に交涉中にて同會社の回答は前號に記せし如くなるが右の回答に付熊谷民長、秋吉會頭、淵上龍山民長は本日午前十時半コールブラン氏邸に於て會見し交涉する筈なり

●民長會議　在韓各居留民團に於ては將來民團施設上氣脈を通じ事を爲すの必要あるを以て熊谷京城民長は來る三月末或は四月上旬民長會議を開かんとて昨日夫々各地民長に宛て同意を要めたり

●京城民團豫算下調　京城居留民團豫算は既に編成出來上り過日來下調べ中なりしが昨日を以て全く結了せしを以て近々民會に提出する筈なり

●仁川民會　仁川民團役所に於ては昨日午後三時より前回に引續き民會を開催せり尙は詳細は次號に報導すべし

●沿岸航路と會議所　仁川商業會議所にては沿岸航路開始に關し萩谷書記長をして上京交涉せしむる所ありたり

●東京外國語學校韓國研究會　東京外國語學校出身者及び同校に緣故を有する在韓の諸氏は今回見出しの會を組織し去る十日午後六時より巴城館に於て發會式を擧行したるが出席者は國分書記官、川上通譯官、海津中佐、鳥居通譯官を始め三十餘名にして先づ役員の選擧をなし會長には國分象太郞氏幹事には鳥居忠恕、天野雄之輔、中島直吉藤戶計太の四氏當選し諸般の方針を協議し終りて宴會に移り午後十一時頃散會せり由來同校出身者は韓國に於て樞要の地位に在る者多く韓國開發のため努力しつゝあるに今此會を組織して日韓兩國のために資せんとす余輩は其の健全なる發達を望む

南淸の革命軍

去る六日廣東支那官吏より革命黨首領孫逸仙が新嘉坡に放逐せられたる旨の電報ありしに就き同志の支那人某は語りて曰く支那兵一度鎭南關に敗れしより屢遊勇の諸頭目に賄賂して革命黨の離間を試み或は安南駐在の佛國司令官に懇請して鎭南關の恢復を圖りたるも遂に失敗に歸し附近一帶の土民は悉く革命軍の威令に服し支那官憲の政令少しも行はれざる有樣なれば官吏等は遂く廣東を去りて欽州及び隆安に引揚げ居れり斯る有樣に革命軍は目下何等の損害もなく武器の收容に努め日々旗擧の準備に汲々たり而して其の武器は當初レミントン舊式銃を用ひたりしも光頭鎭南關を占領せしより支那兵使用のモーゼル銃を併用し更に曩日佛軍と對戰せる時などは小口徑の銃器を使用し大に佛軍の隊長を驚かしたることあり是等武器の輸入は多く新嘉坡及び香港附近より柴棍及び澳門なる革命軍交信所にて一切の聯絡準備を爲すものなり革命軍の軍資に就きては頃日支那官吏の報文中「一種の課稅法を以て軍資を徵集せり」と記しありしは全然虛報にして黨の軍資は全く在外商人即ち濠洲、印度或は米國に在る同志の送致するものなり革命黨の根據地は今や益擴大せられて兩廣及び江西の三省は勿論其の附近の各省に亘りつゝあり而して其首領たる孫氏の放逐云々は決して信ずべき事にあらずと

漢江右岸の奇襲

一月三十日蘇若峴附近搜索の任務を以て差遣せし淺野騎兵軍曹以下若干は翌三十一日正午觀德（長湖院東北方約三里）（漢江右岸）に於て暴徒約六十を奇襲し混戰約一時間半の後其三十を斃し一名を捕獲し二十餘名を負傷せしむ我に損害なし此暴徒は潰走の後觀德東北方の山嶺を退却せしも地形險惡の爲め且つ積雪膝を沒し騎兵の行動を阻害すること甚しく爲めに意の如く追擊を行ふことを得ざりき鹵獲品は小銃六挺火藥及彈藥若干元帥部中軍左翊將の釼一個雜品五個包

●暴徒を生擒す　木浦警察署長は巡査數名を率ひ憲兵と共に八日午前八時長興郡「イウジ」面に集合中の暴徒約四十名を襲擊し其六名を生擒し銃十七挺及び雜品若干を鹵獲す

●ヤソ教徒の頑冥　平安北道慈城郡中江鎭に自衛團組織の議あり一月十六日十七日の兩日に各面長洞長及び人民の主なる者を營林廠に召集し協議會を開催したるに一般韓人は自衛團の組織は多額の經費を要す可しとて憂慮せるより自衛團の主旨目的を說明し費用を示するものに非ざる旨を諭示せしに何れも之を諒し歸村したるに耶蘇敎信徒は自衛團の組織は耶蘇敎と相容れざるものなりとなし漸次反對の氣勢を增加しつゝありと云ふ

●暴徒歸順　楊州郡嘗源面佛巖洞李成完李大順、朴應朱、朴春根・同上漢陰面申[illegible]根等は何れも去る十日に歸順せり

●地方種痘委員の廢止　從來韓國に於ては內部衛生課にて地方種痘委員なる者を任命し各道の種痘事務を司らしめしが彼等には俸給を與へず內部より無料にて交附する痘苗を使用して人民よりは料金を徵收しつゝありて其の間種々の弊害あり現今委員の職に在る者各道を通して三十餘名あるも之等委員は醫術の素養あるに非ず一種の運動により任命せられたるものにして既に各地に警察醫を任命する事となりたる今に此の委員を存置する必要なきを以て漸次廢止する筈なりと云ふ

[illegible]新聞四つ切の氣の利いた新聞なり發行は每[illegible]

●青年會演說會　八日午後七時典洞青年會場に於て演說會を開き辨士徐內斗は人心の團合なる演題にて凡そ天下の事百事苦ありて後樂を生ず君よ彼の普國十七世記戰爭に敗れ土地を割き莫大なる金額を賠償したるが爲め國勢振はず民塗炭に苦みたりしが一擧一致數年ならずして國民の元氣を恢復し遂に積年の仇を復して今は世界一等國となりたり依之觀之人心の團合は苦を經て後樂を生ず云々に對し辨士金完鎭は之に反對して人心の團合は人々同力同和して團合を堅固ならしむるにあり然らざれば和睦平穩に同居するを得ず苦なるものは人心團合すること能はず斯て和氣を以て人心團合し永久堅固ならしめ以て世界に大韓國名を揭げん事を望む者なり云々聽衆約二百餘名十時無事閉館せり

●桂洞の洞會設立　北署桂洞に居住する韓國有志等は同洞內に於ける道路修築及び學校維持等公共事業の目的にて洞會なるものを設立し去る九日夜其第一回洞會を開き會長幹事書記等の役員を撰定し敎育事業に就て協議する所ありたり其費用として該洞居住者にして官職及び會社の俸給を有するものは俸給の百分の五を納入せしめ無職業者は十等に分ちて徵收することゝし此收入額を基本とし夜學を設置すること其他の諸件に付協議する所ありたりと

仁川の外國貿易額

仁川稅關を經由したる外國貿易輸出入額を各國別にして示さば左の如し

	輸出	輸入
日本	二三八、三八六	七一九、六五六
支那	五一、三六三	一七〇、一二五
露國		一、一七二
英國		三九、一八六
獨逸	一〇〇	九、一〇〇
佛國		二、八五六
米國		三八、三五〇
丁抹		二、二〇〇
和蘭		二一
濠地利		二〇
瑞西		三、七四七
土耳古		四、〇八八
白耳義		一、四三八
伊太利		一七一
計	二七九、八四九	一、二九二、四六八

●連絡船增加　帝國鐵道廳にては來る四月一日より交義線を營業線に編入せらるゝを以て關釜連絡船壹岐、對馬、會下山の三隻の外に一隻を增加し關門を起點として午前二回午後二回に發航せしめ關門釜の連絡を完全にせんとの計畫にて着々進行しつゝありと

●信濃川丸の廻航　去る五日群山沖に於て擱坐したる信濃川丸の後聞を聞くに同船は大智丸に曳引せられて群山港に入港したるが直に長崎に回送されて入渠すべしと又同船の積荷は木炭、釘、鑄、浪板等なりしが沈沒を恐れ過半投荷したるが其の殘部は群山丸にて仁川に廻漕さるべしと

●澤田書記官の歸任　統監府書記官澤田平丸氏は上京中なりしが一昨夜歸任したり

▲比田孝一（統監府技師）　巴城館へ
▲中村孝太郞（同上）　同上

●永田警視の南韓視察　內部警務局警視永田幸次郞氏は南韓地方狀況視察のため出張を命ぜられ一昨十一日出發せり

●病兵の後送　一昨日軍需品を積載して入港したる咸興丸は昨日京城衞戍病院の病兵五名を乘せて宇品に向へり

外交團の置土産

ベッセル及コールブラン（上）　對星樓山人

韓國に於ける言論界に於て不相變韓人の好奇心を挑發し朝鮮人の人氣に投じて多數の讀者を有し、漢城の政論社會に奇怪なる勢力を有するものは大韓每日申報なり、其主宰は則ちベッセルなり、彼は英人として殆んど國民性を失ひ、新聞記者としては全く國際政略の利用に歸依せる偏見者流なり、斯る人物によりて唱導せらるゝ評論や記事が何等世の公益、進步、幸福に裨益すること無しとするも彼は朝鮮人よりして第一流の耳目となり、第一等の評論者となり、恰かも排日本の代表者たるの勢力となり、又唯一なる機械として存在せり、從つて其發刊せる新聞紙が多大なる讀者を有し、我帝國の政策に阻害を與ふるの影響は甚大なるものあり。

ベッセルの人格に就ては最早彼此批評する迄もなく其母國たる英國紳士の待遇區域よりは久しき以前に落第せる人物にして、實に大なるアングロサキソン民族の憲法によりて僅かに國民籍を支へるに過ぎず、彼は日露戰役中露國の買收機關たりしチーフ、デーリー、ニッと兄弟的關係を有し、京城に於ては非日本の通信員たるハルバルト並にコールブランの外何人も信用せざる通信を揭載し、今尙は引繼ひて日本政府の各種の經營を中傷非難せるによりて著名となり、韓國には今尙日本の優大を嫉視せる外人少しとせず、韓人中には日本の保護線より逸脫せるもりもあり、彼は斯る社會の爲めに文を賣る一種の商人として存在するが故に、斯る人類を漢城に置くことは假令アングロサキソン民族の憲法の許す處なりとは云へ我國民は同盟國の友交により、又人類自然の法則によりて、ベッセルの退去を要求し得らるゝものと信ず。

ベッセルの友人はハルバルトなりき、彼は日ベッセルよりは智慮ある米人にして、今は太平洋沿岸に於て激しき排日本論を唱へつゝありと、ハルバルトの外に於てはコールブランあり、彼は韓國に於ける空權屋の成功せる米國の一市民なれども、其有せる漢城電氣鐵道及び水道權利は此數年間に漢城政權の利器となり、排日本黨が製造し成功せしめたる報酬として彼亦排日本黨のために財囊となり、利源となりて、今や英國シンジケートの名の下に於て大なる勢力を得たり、ベッセル、ハルバルト彼等はコールブランの使用人たりき。

[illegible]局長金珏鉉贊親副監具然壽德壽宮計五十七人內婦人二十四人重なるは承寧府總管趙民熙同侍從長金春熙同典醫金業培侍從院侍從[illegible]今圭元同金演線等なり

[illegible]貨車の收入額は左の如し

乘車人員	一千〇〇九人
降車人員	一千一百二十七人
小手荷物斤量	四千六百五十七斤
乘車賃金	一千五百九十二圓三十四錢
入場料	[illegible]圓九十八錢
小荷物賃金	[illegible]
貨物賃金	四千八百四十一圓〇二錢
着拂貨物賃金	五百九十八圓二十八錢
發着手數料	一千三百二十五圓四十三錢

發送總數 [illegible]　四千二百七十六錢
到着總數 [illegible]　七百十五錢

[illegible]今回開城新報なるものを創刊し十一日の紀元節をトし第一號を發行せり紙幅は普通新聞四つ切の[illegible]

▲片山貞松(統監府技師)　巴城館へ
▲三輪政一(水原居留民總代)　三ヶ月へ
▲近藤政美(同評議員)　同



一千五百圓の官金泥　樵

天の網は疎なるが如きも罪惡の徒は漏らすことなく遲かれ速かれ露顯して打ち込まるゝと知るや知らずや一時の榮華を貪らんが爲めに罪惡と思ひながらも之れを敢てして己が身の一生をあやまつのみならず父母兄弟親戚の顏にまで泥を塗る呆痴漢は落ち柴のかけども盡きず新聞の三面はこれを以て持ち切るといふ有樣にて斯くまで世道人心の頽落せるかと思へば洵に歎はしき限りなるが爰にまた官金一千五百圓を旨々とせしめて好な女と道行すべく粋な企をなし居る所を捕へられ網目の耻を受けし痴漢あり今其の顛末を記さんに此の

▲大馬鹿者　は名を澤田定八郎(三十)と呼び生れは滋賀縣蒲生郡日野村の者にて日露戰役には陸軍の計手として戰地に趣き平和克復して勳八等に叙せられ一時金二百圓に白色桐葉章を受けこれさへ所持すれば昔時の往來手形よりも確實なり況んや人間到る所に青山あり何を苦んで田舍の土に埋もれんやとざえらい奮發で故郷を飛び出し此の韓國に流れ渡つて或人の世話にて本町四丁目の三共商會に雇はるゝこととなり以前計手たりしことありといふより店主渡邊中齋の信用を得て郵便事務取扱の主任を托せられたり

▲遊興三昧　定八郎は當初の程は身を愼み事務をも熱心に執れるより店主は益々信用して郵便事務は一切打ち任して常には現金の檢査をも爲さゞるに到りしより定八郎は多少の融通も出來ることゝて近所なる寄多川といへる形ばかりの西洋料理屋に足を容れ夫れより茶屋の待遇の味を覺えて淫賣屋に通ひ是れも卒業して遂には新町の遊廓を始め井門、淸華亭、蝶々、開進亭等豪奢の遊びを爲すに至りしより南部警察署の川野刑事は彼れが僅か手當を受くる身なるに斯る振舞こそ怪しけれど竊かに其の行動に注意しつゝあり

▲惡緣の緒　定八郎は川野刑事が注意し居ることゝは神ならぬ身の知る由もなく暇さへあれば料理屋に足を運び藝妓や仲居に惜氣もなく纏頭も吳れて其の歡心を求むれども高が知れた商會の雇人と先方が見縊つて誰さへ好いた惚れたの問題を出す者もなく只其の場を面白可笑しく茶を濁すのみなりしが爰に旭町三丁目の開進亭に頓子といへる化面の者あり他の藝妓どもは新年早々のことゝて彼方此方より口をかけられ多忙を極むれども此妓ばかりは口が掛らず偶々仲居が氣の毒に思ふて客席へ差込めば客が跣足で逃げ出すといふ有樣にて何時も火[illegible]で夜を更かすといふ代[illegible]宴席に蠢妓と名のつく者なればすべたでもよいとの注文にて此の頓子が久方振りに三味線を抱へて席に侍り其席に定八郎も居りて彼方は誰でもよし男はしやと思ふ矢先へ此方は誰れでもよし女はしやと漁り居ることゝて忽ち電氣が通ふて思ひ思はるゝ身とはなりしが人目の關に隔てられ其夜は其儘にて別れたれども頓子は倘しも此の人を取逃したなれば再び男は得難しと翌早朝に寒垢離をかづき凍れる道を馳り廻つて太神宮に跣足參りの祈願をかけ金釘流の筆を走らして今宵逢はねば焦れ死ぬとの古い文句を傳へたれば定八郎は讀の緒切つて初めて女の付文を受けしことゝて其の嬉しき物に譬へんやうもなく夫れより日毎夜毎に蝶々や開通亭にて忍び遭ふこととなりぬ

▲刑事の眼　豫ねて其の金遣ひの荒きに眼を注げ居る川野刑事は近頃頓子との逢引ますノヽ繁げくなりしより此奴彌々以て怪しむべしと晝夜付け狙ひ其の擧動を偵察する由頓子が藝妓の廢業屆をなし定八郎が辻屋にて旅行鞄に毛布など買ひ求めしより扨ては手に手を取つて味な道行を演ずるものと察せらる今は一寸の猶豫もなり難しと一昨十一日の夜半頃加藤巡査を引き連れて開進亭に乘り込み御錠の一聲と共に取り押へ警察署へ連れ歸りたり

▲逐一白狀　刑事の手に捕へられては道がの定八郎も良心に立返り松井警部の取調によつて敢て惡びれもせず罪狀逐一自白に及びしといふ

▲贓金の高　聞く所によれば去る六日の正午頃東京府の長島幸吉といへる人は千五百圓を東京の第三銀行へ振替を托すべく彼の郵便取扱所に來り現金を差出せしより定八郎は其の大金を見て圖らずも惡意を生じ其の金を受取りて帳簿には記載せず當人には正當の振替證を渡し毒喰はゞ皿までの考にて同日吉田健三の貯金三十圓と冬木茂の貯金八十圓をも竊取し其の金にて

金百十圓	金時計
金五十二圓	金鎖
金九圓九十錢	時計附屬品
金二十圓	金銀眼鏡
金一圓	切手
金二十七圓	インバチス
金二十三圓	毛類卷
金十二圓	旅行鞄
金二十圓	白毛布
金五圓	中折帽
金二圓六十錢	鳥打帽

を買ひ求め又

金百圓餘	蝶々(料理店)へ支拂
金二十五圓	同家仲居へ纏頭
金五十餘圓	開進亭へ支拂
金百圓	豫て官金費消の分補償
金二百圓	頓子身受代

として支拂ひ
金八百二十三圓二十錢五厘●●●●●●●現金は旅行の用意として携帶し居たりといふ

▲頓子とは　此の淺智惠の定八郎に思ひ想はれたる頓子とは何者なるかと探つて見ると生れは京都府上京區東門通知恩光院にて所謂鴨川の水にて産湯をつかひ本名は永辻ウタと呼び今年二十五の年增盛りの者にて昨年[illegible]より此の京城へ轉じ來り束の間の榮華ながらも去る九日定八郎に身受けせられたるなり

●強盜逮捕　水原郡南面青龍洞居當時住所不定金文敬(四十)同南面前室村居當時住所不定趙德來(三十)同同面同村居當時住所不定崔永長(三十)等の三名は去る四日夜銃器又は軍刀を携帶し水原郡南面青龍洞居韓先達方に押入り家人を强迫して金十圓を强奪し去り趙德來崔永長の兩名は昨年十一月陽城郡陽洞面居鄭聖玄方へ押入り家人を强迫して金十八圓を强奪したるものにして本月六日午後七時頃金文奎は一行四名の外趙德來崔永善の兩名と相合し再び水原郡南面青龍洞に來り村民を脅迫せんとしたるを村民等協力前記三名を逮捕したる旨曾巨洞里長某なる者烏山驛に訴出たるに依り同驛巡査兩名出張引致取調たるに孰れも强盜の罪跡明確なるを以て九日水原警察署に交附したり

●無錢遊興　廣島縣高田郡吉田町當時龍山鐵道監部運搬業榎木留吉(二十)は一昨日午後七時半頃韓人一名を伴ひ當地長谷川町二丁目の料理店一〇方へ來り座席に通りて酒や肴やと注文し鱈腹飲み喰ひせし結果連れの韓人を先に歸へし自分は跡に殘りて悠々と酒食を續け居りしが話し變つて一丸方にては最初座席に上りし時より客の樣子が何となく妙なりしより酌婦土井淺野をして二圓五十錢の勘定書を示し請求をなさしめし所同人はムッと怒りて帳場に來り客が手も叩かない中に勘定書を出すとは失敬なモット飲むのだ早く飲ませろといふや否や亂暴にも傍の火鉢に掛けありし煮ゑ繰り返るが如き雜煮の鍋を取り上げ件の酌婦目蒐けて投げ付けしかは何かは以て溜るべき酌婦は顏と云はず手といはず一面の火傷を負ひし騷ぎに早速同亭よりは人を警察に馳せしかば直ちに警官出張同人を無錢遊興者として本署に引致せり

●淫賣は厭　福岡縣生れ山本かめは明治町二丁目の萬遊亭とかいふ小料理屋に仲居奉公を爲し居る者なるが一昨日南部警察署に出頭し其の申し立てに自分は最初普通の酌婦として同亭に雇はれしものなるが近頃主人が無法にも自分に向つて淫賣をせよと强ひ一晩に一人や二人の男を押し込む丈の腕が無くつて什麽するかとの無理難題を持ち掛けもし否よと口答へなど仕なば自分を捕へて打ち擲きする非道の振舞の一二度ならず屢々度重なるより什麽しても辛抱出來ず何分共に然るべく御處分を願ひたしとのことに警察署にては早速主人を呼び出して道に外れたる行ひを詰り大に將來を戒めたるが結局警官立合ひの上任意解傭する事となりたり

●●ではあるまいか●●●●　旭町二丁目の報知新聞支局が去る十日より十一日迄の間に於て金十二圓紛失せし旨屆出たるより刑事出張して取調べたる結果同局雇人大澤春秀の擧動が不審なるより若しや夫れではあるまいかと警察署へ引連れ歸りたり

●娼婦檢黴　去る四日五日韓國警視廳管内詩谷檢黴所に於て各署娼婦の定期檢黴を施行したるに成蹟左の如し
娼婦檢黴數百三十八人、内無毒百六人
一有毒三十二人(十五年以上二十年以下)

	健康	黴毒	合計
東署	四	一	五
西署	一五	七	二二
南署	五〇	八	五八
北署	｜	｜	｜
中署	一四	四	一八
小計	八三	二〇	一〇三

(二十年以上三十年以下)

	健康	黴毒	合計
東署	｜	｜	｜
西署	一五	一〇	二五
南署	三	｜	三
北署	｜	｜	｜
中署	五	二	七
小計	二三	一二	三五

●金錢を拐帶す　少し許りの他人の金を拐帶して姿を隱し將來とも世間に對して顏向けのならぬやうな眞似をなすとはサテ心根の間違つた奴共なり所は龍山の兵營工事を請負へる大橋組の人夫大橋某(三十)は過日組の金十九圓五十錢を拐帶し何れへか逃走せしを以て同組よりは直ちに理事廳警察署へ訴へ出でたりと

●炭俵をごまかす　明治町一丁目の玉井式鷹方の雇人山口縣小郡町の藤井利助(三十)は一月初旬に鐵道管理局運輸部へ納むるとて木炭十俵を玉井方より取出しこれを他に賣却して其の代を松瀨幸なる者と共に費消したること發覺し一昨日其筋へ引致せらる

●商品陳列所の抽籤　韓路京城商品陳列館は昨歲末賣出に際し公平なる方法を以て大福引を擧行し入場料收入の全部を擧げて景品に投じたるため他の福引と異なり當籤數比較的多數なりしかば頗る江湖の好評を博したり同館に於ては今回又裏面廣告の如く明日より三日間(雨天順延)本年初賣出を爲すに付同時に第二回大福引を擧行する由にて當日は特に入場料を一枚金十錢とし景品は一等百圓商品切手參枚二等シンガーミシン機械、華本縦七疋精巧なる刺繡額面各一個三等二十五圓商品券三枚四等以下品物及商品券等夫々等差を設け一枚も空籤なからしむるとのことなれば當日は定めて非常の盛況を呈すべしとなり因に此賣出に際し館内全部の陳列替を爲す豫定なりと云ふ

●看護婦の黑焦げ　全体看護婦なるものは何れの病院に於ても品行の宜しき者はなき中に韓國下んだりまで來りし看護婦には尚更のことなりと云はゞ品行の端正なるた方は眞黑になつて怒るかも知らぬがそは塵溜の中より金の塊りでも拾ふ程にもなかるべし偖て京城本町三四丁目邊より折れた所に何々病院と筆太く看板を掲げた病院にハイカラと人の囃す一寸襟垢の拔けた看護婦ありと思召せ此の看護婦兼て院長より生理學や何かを聞き囓り之を實地に應用して見んとの野心を起し併し應用すべきものは少しは優しき男の方が宜しかるべしと眼を八方に配り見當りたのが二三丁目邊の某商店の優男にて早速に當りを付け應用せしに其効驗立ろに現はれ今では夢中になりて專ら應用の眞最中にて先夜の如きは二人手を取て芝居見物などに出懸けて傍らの助的に睡を流させ又は北風身を斬るが如き寒空にも拘らず二人連れにて南山に散歩し稻荷櫻をして羨ませなど[illegible]生理學の實地應用も効き過ぎて本職の病人の看護も怠り勝ちにて右の優男も大弱りノヽの爲め眞黑な焦げの體なりとの投書あり

移轉御披露

弊店儀從來長谷川町に於て營業致來候處今般御得意樣の御便宜を計らんが爲め左記の處へ移轉仕り一層業務を擴張し特別勉勵可申迅速に御注文に可應候に付多少に不拘御用命の程伏て奉希上候　敬白

活版各種印刷
和洋帳簿製造

京城南大門通り三丁目（土佐紙會社隣り）

タイガー印刷社

京仁間往復割引

來る四月一日以降に於ける當局線旅客賃金實施と同時に京龍、仁間往復旅客の御便利を圖り割引往復乘車券を發賣致し候

◎發賣區間
南大門 西大門 龍山　と　仁川 祝峴　驛相互間

●割引往復賃金
一等三圓　二等二圓　三等一圓　通用期限　三日間

本乘車券は往路券面書驛中の何れに下車し又は歸路何れの驛より乘車せらるゝも旅客の御隨意に有之候

明治四十一年一月

統監府鐵道管理局運輸部
電話八五二（營業課）

移轉廣告

當京城支店今般都合に依り南大門外御成町五十番戸千葉鉄前側に移轉仕一層業務勉勵確實叮寧を主とし迅速に御取扱可申に付御用御仰付奉願候
追而御用命の際は取次ぎ電話一二九番御呼出被成下度候

通關保稅貨物　　仁川驛上
小宮山運送本店（電話七一六）

鐵道貨物取扱　同　支店　取次ぎ（電話一二九）

純良の牛乳は洋種に限る

●南大門停車場裏の山腹を見よ 高燥にして水潤きを氣流通のよき處先年牧場を開き牛乳搾取販賣をなし來りしに爾來需用の增加と共に牛舍を新築し加ふるに增築をなし專ら各種の乳牛を飼育す ●當場飼育の牛乳は東京農科大學教授時重獸醫博士送致の牛疫豫防免除液を注射し免疫を施しあるを以て搾出する處の牛乳は極めて純良安全無比なり ●當場生は衛重じ食料牛乳は蒸氣殺菌を施し機械鑵詰なるを以て暑中と雖永く腐敗の患なく成分比重全乳を吟味し

●當場主の抱負は韓國の米豆に次ぐ主要物產たる牛種の改良を計るにあり 純粹洋種ホルスタエン牡牛（原價五千圓）を飼育し當場牡牛の改良が爲め先年來種付の依賴に應す ●當場牛舍の建設より牛乳は一切當局諸賢の指導に隨ひ飼育に勉めて怠らず且つ左の乳牛種と牛舍の設備適格なるを認め餘力を以て汎く證明を得たり

●小山統監府技師　小竹韓國軍醫顧問　兒島統監府藥學士　佐々木廣濟病院長
●吉本韓國赤十字病院長　和田漢城病院長　笹沼警察囑託獸醫
●當場には殺菌專用として蒸汽機鑵の据附あり
●當場には舍內消毒用として兒島式消毒の備付あり

●當場の一大進步

●當場には純粹の洋牛數十頭を輸入したり（第五回輸入）
●當場には斯業に經驗ある富山縣獸醫荒井覺藏氏を招聘したり

京城南大門外　華江島

荒井牧場
荒井牧場

最良の滋養は生乳にあり

第一銀行韓國總支店

本店　東京市日本橋區兜町

內地支店及出張所　大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所　仁川、釜山、元山、鎮南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、成興、馬山、鏡城
淸國出張所　安東縣

株式會社

電話番號　營業部一一番　當直用同一一番　營業部三三一番　國庫部六一番　用度係六一二番　分析所六二二番

總支配人　市原盛宏
副支配人國庫部長　三島太郎
副支配人調査部長　竹山純平
副支配人營業部長　木村雄次

大福引擧行

二月十四日より三月十六日に至る三日間（雨天順延）
當日の入場料一人金拾錢とす
路鐘　京城商品陳列館

景品
一等　壹百圓商品券三枚
二等　ミシン機械　本緞七疋刺繡
額面各一箇
三等　二十五圓商品券三枚
以下一本も空籤なし

株式會社第五十八銀行京城支店

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店　大阪市西區北堀江通五丁目
支店　釜山、仁川、平壤、鎮南浦、安東縣

爲替取組先
東京、大阪、山陽道、二十七ヶ所
東海道、十三ヶ所
南海道、三十五ヶ所
北陸道、二十ヶ所
山陰道、五ヶ所
東北海道、二十八ヶ所
北陸道、十三ヶ所
山陰道、十三ヶ所
西國、三ヶ所
韓國、九ヶ所
清國、一ヶ所

（電話五八番）

杉材木、竹類、灝灰

座敷廻り諸材料特に注意取揃あり右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

小森材木部

京城旭町一丁目
電話七四四番
本宅四〇五番

株式會社十八銀行京城支店

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金　參百萬圓
積立及繰越金　七拾貳萬圓

京城南大門通（電話四二〇）

本店　長崎市築町
支店出張所　京城、仁川、釜山、羅州、木浦、元山、群山、龍山
日本　大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金（利息日歩壹錢四厘）一口壹錢以上何程にても御預り申候

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭艙在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭
鍛冶用として貯炭艙在り多少に係はらず御用に應し可申候

當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

木炭着荷

京城南大門通三丁目
英兄弟商會
電話九四八番

諸官衙御用品調達

營業科目
紙類書籍
印刷附屬品
印刷インキ
防腐デシン
穀物食鹽
織物染料

各學校用品調達

幷に

委託販賣

東京　合資會社アライアンス商會代理店
橫濱百七十六番　ビューエンドライフ商會代理店
東京　千代田生命保險相互會社代理店
東京　博文館發行書籍特約店
東京　金港堂發行書籍特約店
釜山　臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社

本社　京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所　東京京橋區南鍋町一丁目（電話新橋三九六二番）

出寫專務

審美館

寫眞師　高原華泉
寫眞師　奥田星華

明治町二丁目衛戍病院前

内外書籍新聞雜誌

和洋雜貨日用品

文房具學校用品

大阪朝日新聞　一ヶ月四十五錢
同　每日新聞　一ヶ月四十五錢

京城本町三丁目
太平田商店（電話百十五番）

謹告

本日より向ふ十五日間聊か餘興の印として會席御一人毎に籤引きにて御景品差上申し候也

景品目錄
一反物　數反
一目覺時計　一個
一晒木綿　數反
一メリヤスシャツ　數枚
其の他數百本
白籤なし

會席料理　大和町二丁目　咲花亭

御各位樣

本店　仁川理事廳通（電話三二番）

原金旅館

支店　京城南山町（電話一〇七番）

改良 南川山 ㊅印 木炭

大俵・小俵

●龍山南大門其他各驛渡し現金引換へ特別安價を以て販賣仕候間多少に不拘御注文の程伏而奉願上候也

京城南山町三丁目
㊅川西商店

京義線南川驛前
㊅川西支店

日本郵船株式會社

仁川出帆廣告

●釜山長崎門司神戶行　相模丸　二月十八日後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行　第一オハヨ號　二月廿三日後三時出
伊勢丸　二月十八日後三時出
高松丸　二月十二日後三時出
●大連行　伏木丸　船客不載　二月十八日後一時出
酒田丸　三月五日後一時出
●大連、芝罘、秦皇島行　山東丸　三月五日前九時出
●釜山出帆、元山行　弘前丸　二月十二日

御注意　御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄ノ艀舟ハ當所ニテ御引受ケ致ス可ク御乘船ニハ五十分前ニ本店ニ御出向アラン事ヲ

仁川海岸通
貨物及船客取扱店
郡回漕會（電話三九番）

京城南大門通
巴商店（電話三〇六番）